



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2021年7月1日

7月 第233号

奈良・人と自然の会



＜梅の収穫 今年も豊作 何キロあるかな？＞



Contents



ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

ならやまプロジェクト	1	私の野の花草木染め	7
Monthly Repo ならやま	2	仲間入りしました	8
ならやまプロジェクトへの思い	3	ならやまトーク・投句	9
里山の今	4	行事案内・奈良学クイズ	10
月例研修会・レポ	5	幹事会報告・編集後記	11
田植え体験学習・レポ	6		

ならやまプロジェクト

**明るく・楽しく・無理をせず
あなたも私も・力合わせて**

新型コロナ感染状況の先行きは依然として予断を許さない。東京オリパラはどうやらどうしても開催するらしい。ならやまの活動は、何とか6月から午前中だけではあるが再開し、里山の荒廃を食い止めている。コロナだけではなく熱中症対策にも気配りしながら、少しでも継続・前進していることが大切だとみんな頑張っている。7月は「夏だ休みだ里山で遊ぼう」イベントも予定され、午前中限定でコロナ対策に十分に留意しながら子供たちを迎えることになっている。会員の責任ある自己判断によって活動への参加は慎重に考えるようお願いしており、現在の参加者は50人前後。7月中には高齢者のワクチン接種も完了する見通しであり、少しずつ活動参加者も増えて、一日も早くもとの活動状態に戻れる日が来ることを願う。

7月の活動に向けて 活動時間は9:00~12:00

- ① コロナ禍中での活動ルールの「厳守」と熱中症注意
- ② 自然林内の倒木が多いことから危険につき立ち入り注意
- ③ 学びの森の再整備開始（できればこれからのイベントで活用）
- ④ マンパワー不足につき優先度を考慮して効率的に

協働活動：7月1日榎木本伏せ・天地替え アダプトプログラム

イベント：7月17日(土) 夏だ休みだ里山で遊ぼう① (PIO 行事案内参照)



7月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	榎木本伏せ天地替え、枯死木伐倒、チップ処理、林内整備、薪割り、下草刈り ユート：アカマツの森北面地かき
エコファーム	水田（コナギ）除草、施肥、畑チップ入れ・耕耘 ナス支柱建て、瓜ネット設置、西瓜・カボチャの収穫
景観	整備：BC周辺・彩りの森・佐保自然の森草刈り整備、ミツバチ巣箱周辺整備 ビオ：水路・池・木道整備、西池水生生物調査 花：日よけ、ナニワイバラ・アジサイ剪定、ひまわり・シャガ苗移植、山野草園・花壇の草取り、夏花施肥
パトロール	1~4コースパトロール、観察路丸太階段整備、学びの森整備
果樹	鹿よけ柵設置、実りの森除草、ブルーベリー収穫、ウメ剪定

活動日：毎週木曜日 9:00~12:00(当面の間は午前中)

前日水曜日の19時現在の気象庁予報(NHKTV 奈良 19時前放送)の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌金曜日、木曜日にも同予報であれば中止



Monthly Repo. ならやま

徳地 恵男

6月3日(木)活動 晴れ 69名 近大生2名

緑濃い初夏のならやま。1カ月半ぶりに元気な仲間が集まる。朝の打合せで会長の交代が報告される。前会長から5年間信任されたことへのお礼、新会長からは皆さんと一緒に汗を流していこうとの言葉がある。これからの2か月間新型コロナウイルス感染に背水の陣で対策を徹底するよう午前中だけの活動とし、マスク、手洗いと共に大きな声で話さないことの注意を守ることを確認する。



里山Gは部分皆伐地区の枝の整理、薪割りをする。エコGはタマネギ、レタスなどの収穫と田植えの準備を行う。景観GはBC周辺の草刈り、ビオ班は水生生物調査、花班は花壇の草引きをする。ノカンゾウは満開となる。パトGは2コースをパトロール、希少植物の柵を作る。果樹Gは見事に実を結んだウメの収穫、販売の準備をする。

6月10日(木)活動 晴れ 70名

夏の青空が広がる。10時前に佐保台小学校から5年生23名、先生方3名が田植え体験にやってくる。全員で元気な子どもたちを迎える。

朝早くから TENT 張りやブルーシート、足洗い場等の準備をする。二つの田は水が張られ目印の紐が引かれている。会長の挨拶、田植えの説明の後、



子供たちは一列に並んで紫黒米品種「さよむらさき」の苗を3本ずつ手でつまんで植えていく。初めてとは思えないくらい上手だ。田の畔からは応援の声が広がる。約1時間かけて田植えは終了、豊作を祈って田植えの歌を歌う。新聞社、テレビ局からの取材がありインタビューに答える児童の姿もある。

子供たちが帰った後、短い時間だがそれぞれの作業につく。今日もウメがたくさん収穫される。花壇の草引きも忙しい。

6月17日(木)活動 晴れ 69名 近大生3名

先週の田植えの様子が新聞3紙に載り、掲示板に貼られる。昨日に比べ気温は6度高くなる。学びの森整備に向けて現地確認を実施。また、山林への立ち入り注意の警告表示が取り付けられる。

里山Gはシイタケ棺木置き場の整備、コナラ育苗床の除草。ユート班はマツ林の落ち葉掻きをする。

エコGはメロン、ゴーヤ、オクラ苗の定植、ナスの支柱立てと脇芽欠き、水田の苗の捕植を行う。景



観Gは彩りの森で除草作業、ビオ班は土手改修工事、タガイと水生生物定期調査を行う。花班は山野草園の整備と除草、皇帝ダリアの支柱を立てる。パトGは展望広場の笹狩り、倒木の処理を里山Gと共にやる。果樹Gは実りの森の除草作業、ウメの収穫販売を行う。

ならやまプロジェクトへの思い！

富井 忠雄

「ならやまプロジェクト」は、奈良県が買入れた平城京跡歴史的風土特別保存地区にある土地の景観を整備する事業であり、2007年(平成19年)4月に奈良県から「ならやま里山林景観整備事業」として当会が受託したことに始まります。

2008年に全体の基礎調査、2010年に活動の基本方針が打ち出され、当初の荒れ放題の状態から次第に観察路を含めて整備が進みました。2012年に発生したナラ枯れには思いのほか翻弄されましたが、これも何とか2017年にほぼ終息しました。当初、7haだった管理対象地域は、現在は5地区16haに広がっています。

私がならやま委員長を拝命したのは2019年。まず、里山・エコファーム・景観・パトロールの各グループの活動内容とそれぞれに参加する方についての理解に努めましたが、その時に改めて各グループには人材が豊富で、それぞれが優れた知識、技術などを持つ集団だと再認識しました。昨年からは果樹グループが増えて5つの専門集団がプロジェクトを担っています。

最近できた里山展望台からは、復活され適切に保全されている里山全体ののどかな風景を見渡すことができ、西方のかなたには生駒山頂を眺められます。

今年はプロジェクトとして15年目に入り、全体の活動としては、以下のことに注力するつもりです。

- *東池から田畑を通り西池まで里地を通る水路の整備。(水生生物、水生昆虫が生息する小川を作る)
- *学びの森の再整備をし、子供たちが里山林と親しむ入り口としてイベントなどに活用。

(建設ワークショップへ竹材提供で交流が始まった大学生ともコラボしている)

- *福祉厚生面で新型コロナ対策の徹底。
- *協働活動による一体感向上。
- *ほのぼの基金による収入の確保。
- *コロナ禍収束後には、昼食時の賄いの復活を含めて、会員の親睦向上に努める。

また、各グループにおいては、すでに新春里山研修会で発表された里山グループのように、これまでを振り返り、今後、ならやままでの活動はどうあるべきか、5年後にはどのようなになっていけばいいかなどについて、各グループの中で忌憚のない意見交換をしていただき、プロジェクト全体として取りまとめていくことができればと思います。そのためにも、各グループはもとより、グループ間でも、日常のコミュニケーションが高まるように努めたいと思います。幸いにも5つのグループ、並びに各班は優秀なリーダーとスタッフに恵まれています。知恵と経験を活かし、「明るく、楽しく、無理をせず、あなたも私も、力をあわせて」これからもならやま里山プロジェクトが生き生きとした活動であるよう願っています。

そんな気持ちのいいならやま里山に、子供たちを迎えるイベントは、田植えや稲刈り収穫祭、夏の里山で遊ぼう・秋のじゃがいも祭り・里芋収穫祭・冬のシイタケ菌打ちなど、今年こそはできればと切に思います。

私事ですが、法隆寺の近くに生まれてから今日まで約70年住んでいます。今年は聖徳太子1400年遠忌記念の年で、色々と式典、特別展など行われています。聖徳太子の憲法17条、

「一に曰く、和を以て貴(とうと)しと為(な)し、忤(さからう)こと無き宗とせよ」

の言葉を、今も座右の銘としています。

平城山の断想

木村 慎司郎



花班に参加して

石田 とし子

幼少期を過ごした故郷よりも、何時しか「ならやま」の地での月日が多くなっていた。今はこの谷間で、岩間からしみでた水^{たにあい}霊^{いわま}の如き人生の旅人は遊ぶ。

赤土の丘はハヶ岳連峰の盟主と同名の赤岳と名づけられている。鳥観の丘からは平城宮大極殿の鷗尾を遠望し、時代を超えて奈良の都を見下ろす。山^{やま}襷^だからしみでた水は一部の浄化処理水をも併合し、あたかも太古からの如き瀬音をかなでる。コスモス、皇帝ダリアそしてタンポポも同化して、日本の原風景であるかの如き風情。かつて悲恋^{かげひめ}の影姫が涙を流した平城山一帯。

谷の中央部を、奈良・西ノ京 斑鳩自転車道がゆるやかなカーブを描く。

実状は、その環境を愛でて感嘆しながら自然人が歩く道。



無作法な若者が叫ぶ。

「オーイ。この道はどこへ行くんだ」

「どこへも行かない。ずっと昔からここにあって、どこにも動いてない」

山を想えば人恋し、人を想えば山恋し、心象の風景の中に、単独行の加藤文太郎が、漂泊の俳人山頭火の孤影が、浮かび上がる。今は集団に帰属しているが心は満ち足りるのだろうか。生き甲斐を探していたつもりの惰性の自分に追いかけてくる言葉。

胡^{なん}為^すれど 煌^{こう}煌^{こう}として 何^{いず}こに之^ゆかんを
欲^ほするか (帰去来の辞)

山肌に湧くもやは、雑木林をすり抜け、「かすみ」「霧たち」「天の川」などと名づけられた畑を覆う。ビオトープの水草をかすめ、国道24号線より大和国原に消える。

奈良に住んで四年。東大寺、興福寺、春日大社、平城宮跡、法華寺、不退寺、若草山、佐保川、ならやま…歴史の重みを感じています。

萬葉植物園、吉城園は大好きでよく出かけます。帰りの、千寿庵吉宗のわらび餅、転害門カフェも楽しみです。

佐保川で三年前に「オドリコソウ」を見つけた時は、びっくり！でした。図鑑でしか知らなかったもので、浜松の友に電話したほどです。地元の方にとっては、普通のことなのですね。

「ナラノヤエザクラ」と「ナラノココノエザクラ」を知り、サクラの真の美しさを知った気がします。「ナラノヤエザクラ」を所望した中宮・彰子の気持ちが理解できます。

そんな中で、一年前の会との出会いは、大きな節目となりました。皆さん方の熱い思いと優しさをひしひしと感じています。見る物、聞く物、全てが驚きと感動の日々です。

花班では、足手まといになりながらも、リーダーのお蔭で、楽しく活動させていただいています。「ナニワイバラ」「ナデシコ」「ヤグルマソウ」「ジンジャー」等の花々に心奪われ、浜松では考えられなかった霜よけの奈良での重要さを痛感しました。コロナ禍の中、皆さんに見られずに咲き終わっていくのが残念です。

これから夏にかけ、沢山の花々が咲きますのでぜひお楽しみください。



「ナニワイバラ」2021.04.26 撮影

月例研修会レポ
日本最古の官道・横大路

青木 幸子

6月8日(火)「日本最古の
官道・横大路を歩く」を楽しむ



子ツバメの合唱
(高田市駅近くで)



に、近鉄高田市駅に集合。参加者19名。梅雨の中休みでいきなりの真夏日となる。日中は30℃を越えるとか、まだ体が慣れてないので心配になる。

9:40に出発し、まずは近くの龍王宮へ。ここは第三代安寧天皇の片塩浮孔宮跡と伝承されている。



夾竹桃が満開。次の長谷本寺までの通り道に、歌手の福山雅治が結婚式を挙げたという、豪華な邸宅レストランがあった。

長谷本寺へ。ご本尊の十一面観音菩薩像は、



桜井市の長谷寺本尊と同木で刻まれたという。この木は滋賀県高島郡に生えていた楠が洪水で流

され、各地で不思議な事を起こしながら、この寺の前まで来たところで動かなくなったので、高僧によって刻まれ、残りは長谷寺の本尊として祀られた、との伝承がある。中に入り自由に拝観できる。

専立寺・寺内町へ。慶長五年(1600年)に



創建された専立寺を中心に寺内町が発展し、商いのまちの礎が築かれ

たという。往時を偲ばせる豪華な彫刻の表門、かつては壮大な本堂があったが、火災により焼失したとのこと。門、太鼓楼、築地塀は大和高田市の文化財に指定されている。江戸・明治・大正・昭和の町並みが見られる歴史地区。

不動院(大日堂)へ。大和高田さざんかホルのすぐ横にあり、聖徳太子の創建といわれ、国の重要文化財に指定されている。ちょうど

ジサイが満開。花の色の違いはなぜ?諸説紛々。しばらく歩く。徐々に気温が上が
り汗ばんでくる。この時期のマスク
は辛い。水分補給がかかせない。昔の人はこんな暑さを経験してないだろうなあ。



太神宮の高灯籠。往時、旅の道しるべとして



明かりが灯され、伊勢神宮をめざす「おかげ参り」は大群衆となってこの前を通ったという。

横大路をひたすら歩いて、やっ

と昼食場所の公園にたどり着く。一面の緑に目も癒され、ホッとすると木陰にシートを敷いて



お弁当タイム。密を避け、約40分の休憩の後、午後の行程へ出発。「これからはひたすら歩きやで〜」と世話人。さらに気温は上がる。暑い中、約一時間ひたすら歩き、入鹿神社へ。

明治時代、逆臣である蘇我入鹿を神として祀るのは都合が悪いと、社名を改めるよう政府から言われたが、地元住民は拒んだという。今も地元の人々から崇敬を集めている。スマホをかざしてQRコードを読み取り、案内を聴くという今様の仕組み。しばし長椅子で休憩する。



ここから最後の踏ん張り。おかげ参りの旅人をひととき癒す接待場を過ぎて、やっ

と八木の札の辻に到着したが、なんとコロナの影響で「6月1日から当面の間休館します」との貼り紙が。皆さま、お疲れさまでした〜。

田植え体験学習レポ

エコファーム 藤原 勲

梅雨の中休みか晴天の続く6月10日、恒例の佐保台小学校5年生による田植え体験学習が、ならやまの水田で行われました。

朝からの好天で気温も30度を超える夏日になることが予想され、生徒たちのコロナ感染対策と同時に熱中症対策のために、急遽水田東側の竹林の側に大型 TENT を張ることにしました。田植え作業の準備も整った頃報道の奈良テレビ、朝日新聞、毎日新聞のクルーも到着し生徒たちを待ち受けています。

予定の10時頃にならやま大通りを渡り展望台の横の階段から、青い帽子に真っ白いシャツ、青い短パンの元気のいい生徒たちの声が聞こえてきました。TENT に荷物を置くと水田の南側の土手に集まり、待ち受けていた女性会員から赤い襷を着けてもらい、どこか面映ゆくもやる気になっているような表情も見られます。

千載会長の歓迎の挨拶でこの体験学習が今回で13回目であり、これまでに約250名の先輩たちが田植えをしている事、次に鈴木前会長の



の今から植える古代米の一種「さよむらさき」の話や田植えについての説明や注意事項などを生徒

たちは熱心に聞いていました。

女子生徒11名は北の水田(はぐくみ)、男子生徒12名は南の水田(未来っ子)の畦で東に向かって南北に一直列に並び、各自が持参した名札を自分が植える田の水際に立てました。

始まるの合図で水田の中へ恐る恐る足を入れると「冷たい!」「ぬるぬるして気持ち悪い!」「足が抜けない!」とあちらこちらで声が上がリ、ふらふらして手をついたり、横や後ろを向いたりなかなか思い通りに動けません。



男性会員が畦の両側から、植える位置の目印を付けたロープを張り、いよいよ田植えの開始。

水田に浮かべられている早苗の束を手に取り、教えられたとおり1人90cm幅の間に3株ずつを3列植えていき、全員が植えると合図の笛で30cm後ろへ下がり、また同じように3列植えていきます。3回、4回と繰り返していくうちに慣れてきて歪まず等間隔に早く植えられるようになってきました。余裕が出てくると隣の子とふざけたり、よそ見をして思わず尻餅をついて泥だらけになっている子が見られ、その度にあちこちでどっと歓声や笑い声が上がっています。

やっと全員が植え終わり、洗い場へ行くと優しい女性会員のサポートで泥のついた短パンなども綺麗にしてもらいTENTでホット一息。

報道記者から取材を受けて、カメラの前ではにかみながらも初めての体験を楽しそうに話していた女子生徒の笑顔が印象的でした。

最後にユーチューブから録音した懐かしい「♪田植え歌」をバックミュージックに、田の神様に作物への感謝の気持ちと、秋の豊作を願って全員が見守るなか、男女代表の2名がならやまで咲く花を水田にお供えしました。

予定より少し早い11時15分頃、爽やかな笑顔と声で帰路につく生徒たちを見送るように植えられたばかりの水田一面の早苗が青田風に揺らんでいます。

秋にはまた、みんなで元気で楽しく稲刈りや脱穀の収穫体験をしましょう。

できればマスクなしで!!!



私の野の花草木染め

小島 武雄

私の草木染との最初の出会いは、家の近くの摂南大学薬学部の薬草園見学会でした。付属の研究林の中で、色々な野草や樹木から薬が作られる話を興味深く聞いていました。ある日、畑で薬草となる藍の刈り取りを行い、その葉を集めて藍染体験の機会がありました。染め布用に買い求めた真っ白なシルクのスカーフを染液につけるとサッと緑色に染まり、それを絞り上げて空気に晒すと見る間に綺麗な藍色に変化していきます。その驚きと感動！これが草木染めの始まりでした。

その後、随分と探して、井出町の教室にたどり着きました。ここでの体験入門では、まず乾燥した枯れ草みたいなメリケン刈萱（イネ科の多年草）を細かく切り刻み、煮出すこと1時間。白い綿ストールを染めると、これが見事に鮮やかな黄色（刈萱）に。あの枯れ草で？ さらに銅媒染をすることで、部分的にボカシ焦げ色に変化。とても素敵なストールが出来上がりました。これですっかり草木染めにはまりました、4年前のことです。

自然の植物からそれぞれの色をいただくのですが、意外なことに花では染まりません。むしろ、枝や、葉、根から意外な色素が出て来るのです。そしてなぜか緑色には染まりません。

草木染めは、染材料を煮出すことから始め、下処理、加工、染め、水洗い、媒染、仕上げ水洗い、乾燥の手順で行います。教室では花梨（茶）、杉の葉（橙）、笹（黄）、高野槇（橙）、茜（赤）

と染めていきました。京都ラジオ（もうひとつの京都）の取材で本上まなみさんも来られて、



染め体験をされるなど、こちらの草木染め教室は、結構人気がある様で、随分遠くから通われている生徒さんもあります。

染め布ですが、シルクはそのまま染まりますが、綿、麻は、うまく染まらず、1時間ほど煮る下処理が必要です。染め液の抽出にも熱い湯が必要です、流水も沢山使います。暑い夏には、煮出し作業の要らない柿渋（茶）、インド藍（青）などを染めます。また、ハーブ系の染料を煮出す時には、立ち込める香りにとても癒されます。

これまでに染めたのは、シマトネリコ（黄）、ラベンダー（薄緑）、冬青（ソヨゴ 薄赤）、藍の生葉（薄青）、藍の乾燥葉（群青）、栗のイガ（茶）、梅の枝（梅色）、玉ねぎの皮（黄）、桜の枝（桜）、ユーカリ（黒）、梅の木ゴケ（紫）、枇杷（赤）、レモングラス（黄）、ニンジンの葉（黄）、唐鼠麴（トウネズミモチ 緑）、黒豆（灰）、ドングリ（茶）などですが、全て植物由来のとても優しい色に染まります。

染め布はシルクスカーフ、ストール、リネンシャツ、トートバック、帽子、絹糸、さらに傘まで。そして、染め加工には、板締め、ビー玉絞り、雪花絞り、型摺り、縫い縛りなど、工夫することでとても素敵な出来上がりになります。



また、自然の鉱物も登場します。ミョウバン、鉄、銅を溶かした媒染液につけて、染め布を茶色や黒に変化させます。

植物原料は、家の庭で育てた藍や、公園でもらったユーカリの葉、ならやまで採集した冬青など、それぞれの季節材料集めもどんな色が出るか、とても楽しみです。

材料の刻みから始める1日作業で体力的にも大変ですが、いつも美しい色彩と香りに満ち溢れて幸せな気持ちになれます。

仲間入りしました

岡田 俊司・扶美子・高志

昔ながらの市場の中で経営していた鶏肉店と惣菜店を閉め、2020年より第2の人生をスタートさせました。

私は2代目で父の店を引き継ぎ頑張ってきましたが、子供の頃よりずっと疑問がありました。一つ目は動物（にわとり）を殺して食べることは悪いことではないのか、という罪悪感。二つ目は、では正しい食事とはどういうものなのかということです。今まで、色んな本を読みました。自給自足の本や手作りの本、無農薬野菜やオーガニックの料理の本、食品添加物の本、経皮毒の本……。そして、いろいろな所にも出かけました。北海道のアリスファーム、放し飼いの養鶏場、循環農法の赤峰農場。

赤峰農場の赤峰勝人さんの本との出会いは当時、花粉症に苦しんでいた私にとって決定的でした。無農薬野菜と玄米そして、砂糖を減らすことによって花粉症から薬も使わず解放されました。そして、探し求めていた本当の食生活にたどり着いたのです。

健康で長生きが出来る食生活とは、自分が愛情をかけて育てた野菜や米を食べ、心を込めて味噌や漬物、梅干しなどを手作りする。もちろん無農薬で。植物にも感情があり自分を大切に育ててくれた人間にきっと、応えようとしてくれると思っています。そして人は肉を食べなくても生きていける。

2020年、区民センターにおいてあったパンフレットがご縁でシニア大学に入学、実習で「奈良・人と自然の会」で体験させていただき、ここで学ばせていただくとうと家族で入会させていただきました。今、実践する土地を捜していますが、この会で色んなことを学ばせていただくと思っています。

よろしくお願いします。



梨本画

梨本 哲

昨年10月1日、シニア自然大学校の実習で訪問、午前中は辻本さんの案内で見学、午後からは花園での作業体験でした。この日感じたこと

は、①自然が相手に学ぶことが多い、②労働の楽しみがある、③仲間が多い、この3点です。シニア自然大学校終了後にこちらにお世話になろうと決めました。入会前に、作業服、長靴、カップなど用具一式買い揃え、4月1日の新人歓迎会に参加しました。鈴木会長（当時）から歓迎のお話と、会の帽子やタケノコのプレゼントがあり感激でした。入会して驚いたのは、12ページもある会報を毎月配布されていることです。記事の投稿、編集、印刷と大変なご苦勞をされていますね。また、会で制作された、図録「見つけよう自然のなかま～ならやまの昆虫と植物たち」は、良くてきていますね。今後、何かと皆さまに教えていただくことがあると思います。どうぞよろしくをお願いします。



177頁の店員

中嶋 さよ子

一昨年交通事故で入院して、約一年半プロジェクトを休会させていただきしました。新年度より、改めて再入会という形で参加することができました。久しぶりに山に来た時、萌えるような新緑の美しさに改めて感動いたしました。こうしたことを体験できることが、身体に新しい活力を与えてくれるような感じがいたします。

新しいグループに入り、仕事も新しいことが次々とあり、楽しくさせていただいております。まだまだ身体は元に戻ってはいませんが、できることをやらせていただいて、頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

ならやまトーク・投句(7月編)

稲株も千鳥足なり子ら田植え 鈴木末一

(佐保台小の田植教室。泥んこの田圃と格闘しながら植えた稲の列)

夏鴨の夫婦でリゾートビオトープ 同

(ビオトープに鴨の夫婦がのんびり遊ぶ。もう子育ても終わったのかな)

夏グミを奪ひ合ひしよ幼き日 阿部和生

(甘いグミの実の一枝、遠き日の思い出話も添えて子供たちに届ける)

カラフルな行燈並ぶ初夏の畝 藤原 勲

(行燈―夏野菜の苗を、風や害虫から護る紙の囲い。夏の風物詩)

ホリデイに田植え忙し若夫婦 坂東久平

(休日の梅雨の晴れ間、田植機を運転する若い夫とサポートする妻)

青空と生駒を映す植田かな 坂東久平

(田植が終わり、水を張った田圃。水面に青空と生駒山が揺れる)

南高梅青き連珠のオーラかな 古川祐司

(十年のならやま梅林が元氣。大粒の南高梅の実は鈴生りの迫力)

投句歓迎(古川まで)

(CYA03421@nifty.com)

亡き友やあのコロナ禍の走馬灯 岡田安弘

(人工呼吸器を拒んで逝った友。コロナ禍続く中、一周忌に思う)

青嵐ワクチン予約なかなか 坂東久平

(5月6日ワクチン予約開始。奈良市では六万人が電話に殺到)

頬を刺すりら冷え深くバイク行く ハ本順一

(「リラ冷え」はライラックの咲く北海道5月の季語、本州の「花冷え」は4月。あの渡邊淳一描く「リラ冷えの街」。バイクを駆って何処へ?)

金星がいつもの栈敷五月場所 藤原 勲

(大相撲五月場所、決まった席に清楚で美しい女性が毎日来て観戦しています。美しい女性の観客を、相撲業界では金星と言います)

曾布に居て遙か三輪の地縁なり 笠井文夫

(我家は、矢田丘陵が南東に延びた分岐部の先端に位置し、南方に葛城山、東南に三輪山を展望する、非常に眺望の良いところです。)

口ばかり五つ並んで慈の仔 古川祐司

(6月例研の青木さんの写真。大和高田市街、家並の軒下には幾つものツバメの巣が見える。それぞれに、大口を開けた雛の顔が並ぶ)

行事案内



「夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！①」

今年も新型コロナウイルス感染予防のため、時間と参加人数を制限して実施します。内容については今後の状況により変更もありますので詳細は7月1日以降の当会HPをご参照ください。

実施要領

1. 日時：令和3年7月17日(土)
09:00～12:00(受付開始08:30)
前日19時前のNHK天気予報で奈良県北部の降水確率が50%以上の場合は7月24日(土)に延期。
2. 場所：ならやまベースキャンプ
3. 内容：昆虫観察、植物観察、里山遊びなど。
4. 参加費用：無料
5. 募集人数：小学生のご家族合わせて30名
6. 申込方法：7月1日よりメールにて受付。
メール宛先 event@naranature.com



奈良学クイズ



▲〈写真A〉 〈写真B〉▶

県内のある神社仏閣について
の次の各問にお答えください。

- 〈問1〉写真の灯籠があります。神社仏閣名をお答えください。
- 〈問2〉一番手前の灯籠と所縁のある人物名をお答えください。
- 〈問3〉写真Bについて、この彫刻の人物名をお答えください。
- 〈問4〉この神社仏閣は、神仏分離以前は何と称していましたか。
- 〈問5〉日本唯一の建造物があります。その名称をお答えください。

【応募方法】

メール nara-suzuki@naranature.com

【締切日】令和3年7月3日(必着)

【景品】?????

8月ならやま活動&行事予告

*ならやま活動(木)

8/12 活動中止 夏休み

*自然教室

8/16 燕の埒入り観察会(予定)

*イベント

8/7 ばらカフェ ボランティアセンター

8/21 夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！

2021年6月度幹事会報告

日時：2021年5月25日 15:00～17:00

I 会計、総務部より

- ・会員動向：退会2名、会員162名
- ・会計報告：収支報告(HPビルダーの購入他)

II 活動・行事関係

- ・奈良県も緊急対応措置中だが、感染リスク対策を厳守することを前提に、ならやま活動を午前中(9～12時)のみ6月から再開する。
- ・春の感謝祭は中止する
- ・ならやまプロジェクト関係
6月10日 田植え(協働活動)雨→15日(火)
賄い関係：お湯・麦茶・梅ジュースなどの提供はしない

・7・8月イベントについて

山の日川の日イベントは実施

- ・ならやまへの部外者の立ち入りについて
奈良県との協定上からも他者が利用することを当会だけで決めることはできない。個人の立ち入りについても安全面から立ち入りは遠慮いただきたい旨の警告掲示を検討。

生き物採取に対する対策も要検討。

III 企画、助成金事業案件

- ・記念誌委員会：担当者に原稿依頼中。20周年を機に会員の思いを共有し一体感を高めるためにアンケートを検討
- ・図録：タイトルを「ならやまの木々たち」とする
- ・各種助成金についての状況説明あり。
- ・鹿害対策として市からの獣害被害対策補助金申請予定

IV 広報、関係

- ・ネイチャーなら7月号編成案の確認他

V 報告、連絡事項、その他

- ・月例研修会 6月8日横大路は実施
- ・自然教室 6月中止

7月度幹事会：6月29日(火) zoom 会議



＜あのトチノキは・・・＞

2～3年前のこと、ベースキャンプに3本のトチノキ(幼木)を持って来られた方があった。どなたかわからない。

さてどこに植えようか・・・「あの丘の上はどう？」ということ、1本だけ持って丘に登り穴を掘って植えた。植え終わって、しばらくその場所から遠くを眺めてみた。人々が思い思いに動いている、畑も山も駐車場も全部見渡せる。遠くは生駒山まで見える、素晴らしい里山の景色が目の前に広がっている。ならやまベースキャンプをこんな上から見たことがない！すぐにみんなを誘い数人で登って眺めた。「へえ～」「すごいね～」「いいねえ～」「・・・」

あれから数年が過ぎ、あの丘に枕木が敷かれ、見晴らしのいい展望広場ができた。ふと、あのトチノキはどこに植えたかな、と気になり探したが、見当たらない。多分、枕木の下になったのだろう。なんとか枕木の間からでも芽を出して、いつか大木になって大きな葉っぱで展望広場に日陰を作ってくれたらいいな～。後の2本は杉林の近くで元気に育っている。が、今年の4月、一本が鹿に食べられていたの



会員動向

退会：6月14日 野中育子

発行：奈良・人と自然の会

URL : <http://www.naranature.com>

編集代表 Mail: editor@naranature.com

表紙写真：梅の収穫 今年も豊作

大きく実った南高梅は今年も豊作。梅パワーで暑さを乗り切ろう！！